

ISWA（国際廃棄物協議会）

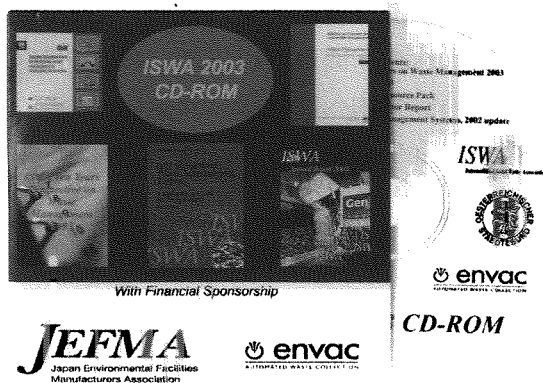
- 【訪問先】 ISWA（国際廃棄物協議会）
International Solid Waste Association
- 【所在地】 Vesterbrogade 74, 3rd floor DK-1620 Copenhagen V Denmark
Tel: +45-3296-1588
- 【訪問日】 2003年11月3日（月）午後
- 【対応者】 Suzanne Arup Veltze (Managing Director/ISWA)
Marianne Thorsen (Technical Manager/Dansk Komite for Affald (DAKOFA))
Henrik Wejding (Technical Manager/Dansk Komite for Affald (DAKOFA))

1. はじめに

今年のISWAの活動等を納めた広報用CD-ROMのジャケット（下写真）にシルバーマンバーであるJEFMAの文字が入ったこともあり訪問した。ISWAの事務所は小さく大人数で行ってもあまり話が出来ないとの情報があり、表敬挨拶程度を考えて訪問したが、JEFMA 森下副会長からの事前レターが効いたのかデンマークと日本の小旗、資料の山、コーヒープレイクセットにより歓待を受けた。その後の雰囲気は写真1の通りである。



写真1 ISWA 事務所でのスナップ



ISWA2003CD-ROMとジャケット

2. ISWAの概要説明

ISWA 国際会議ではお馴染みの Suzanne Arup Veltze 女史から 33ヶ国加入の ISWA の概要を説明された。デンマークのコペンハーゲンに拠点を置く協議会で廃棄物処理分野を世界規模でネットワークしている。出版関連委員会、科学技術委員会、ファイナンス委員会、会員関連委員会の4つの委員会で構成されており、大きな活動目的は ISWA 開発プログラム基金を通し、低開発国や経済発展途上国への廃棄物処理関連の教育や、廃棄物の効率利用、持続可能な管理運用についての情報提供である。ついでに訪問者に対し個人会員やゴールドメンバーへの強い勧誘を受けた。

3. デンマークのリサイクル統計データ等説明

ISWAを手伝っているDAKOFA社のMarianne Thorsen 女史の説明（写真2）の主なものは以下のとおりである。



写真2 マリアンヌ女史の説明様子

■2002年データでは家庭ごみ量は増えている。家庭ごみはヤードごみが主体。店舗、学校などからのごみも多い。建築廃材も問題となっている。

■2008年予測（目標）リサイクル率65% > 焼却熱回収26% > 埋立9% > ケミカル処理1%（図-1参照）

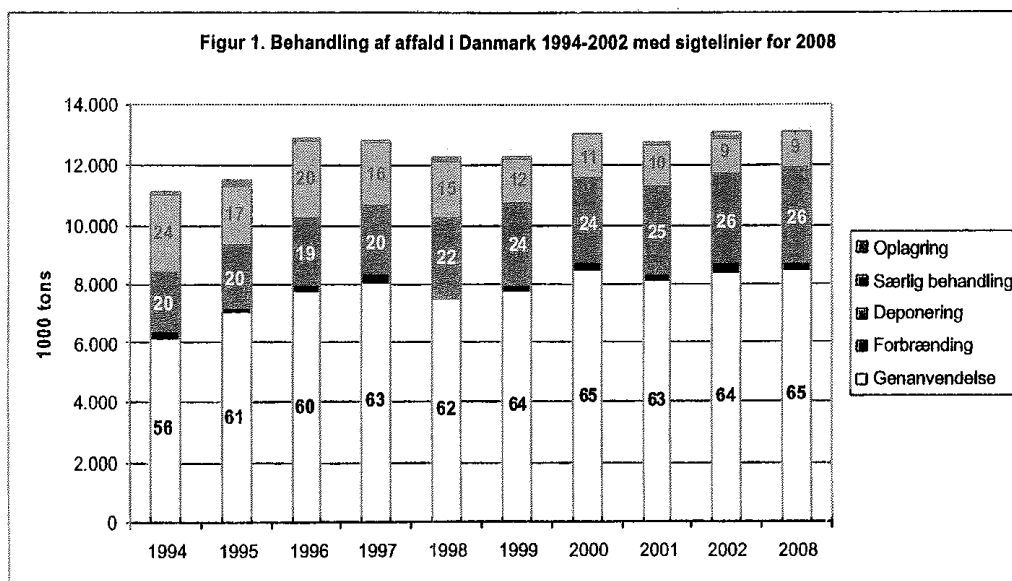
- ・リサイクル率は2002年度からの伸び率は1%で、この辺が限界との見解だった。
- ・家庭ごみのリサイクル率30%や産業廃棄物もリサイクル率向上の検討対象であり、リサイクルできないような“悪い”ごみに成らないようにする必要ありとのこと。

■2005～2008年中期方針

- ・燃やせるものは埋立てるより燃やす。
- ・再利用できないからケミカル処理は避ける。
- ・労働条件の向上（リサイクル産業に従事する人たちの過酷な労働作業環境が向上するような廃棄物処理や運営を考える必要がある）の為にごみ処理を簡素化する。
- ・EU規制の遵守徹底
- ・そもそも環境にやさしい製品（IPP）とする。

■容器のリサイクル処理（次葉の表参照）

- ・EUは燃やすな、デンマークは燃やして電力、温水に変える！のが違う。
- ・EUより数値の劣っている項目への対応
 - * 金属＝産業廃棄物と家庭ごみの分離と缶のリサイクルの推進
 - * プラスチック＝分別の法律、プラスチックの質に規制、市の街角で集めりサイクルなど



Kilde: Affaldsstatistik 2002

図1 デンマーク廃棄物処理の経緯と予測

EU 全体とデンマーク（1999年）とのリサイクル度合い（%）比較

	EU 決定	EU 協議会 2006 予測	EU 共同体 2008 計画	デンマーク 1999
ガラス	70	60	60	85
紙	60	55	60	59
金属	50	50	50	35
プラスチック	15	20	22.5	11
木箱	—		15	?

デンマーク平均値 53%

■市がパンフレットを市民に配布、ごみの捨て方やリサイクルの仕方をキャンペーンする。コンテナを置くのが一番良い。廃棄物収集業者の教育も大切。

■ Green Tax

ケミカルなもの、リサイクルが効かないもの、金属類に工場がTaxを支払う。工場を建設する時、稼動時に排出される廃棄物が環境にやさしいものか査定してOKなら建設許可が下りる、また工場の廃棄物埋立率が決まっているので、廃棄物を減らすのが最も良い。家電製品に対してもEUの%をベースに製作することになっている。中古車の部材に対する規制もあるくらいである。

4. 『経済性と環境とのバランス』の説明

DAKOFA社のHenrik Wejdling氏から、『経済性と環境とのバランス』についての講演を聞いた。知らないうちに環境を汚している物もあり、環境にやさしいごみ処理が大切である。デンマークは輸入品の処理に問題がある（規制しすぎると輸入できなくなるが）。製品の原料を供給している第三国のことも考慮して環境やリサイクル等を考えるべきだと言った主張であった。（図-2参照）

（文責：澁谷榮一）

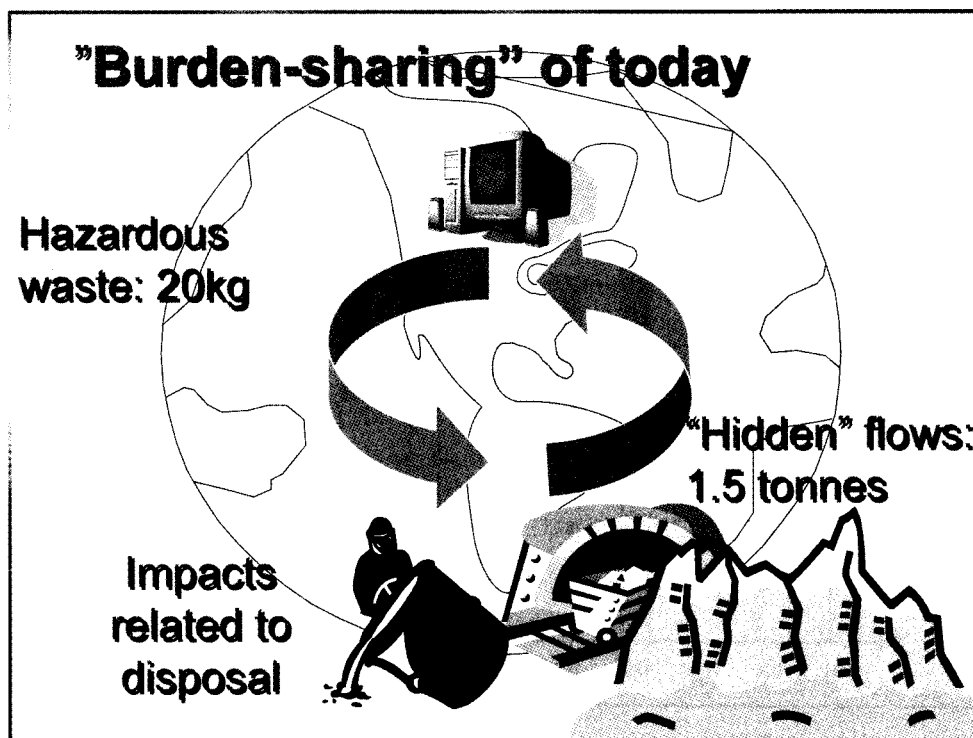


図2 第三国へのインパクト